

1. 守口市不登校児童生徒の現状

- ・令和元年度から不登校児童生徒数の増加が続き、過去最多の状況にある(資料1)
- ・不登校児童生徒の千人当たりの割合(千人率)が、小学校等・中学校等ともに全国公立学校に比べて高い数値となっている(資料2)

2. 守口市の不登校支援について

①新規不登校児童生徒の減少 対象:全ての児童生徒

様々な教育活動を通じた自己実現や社会的自立に向けた学びの場が確保されることをめざす

②学校復帰や社会的自立に向けた支援 対象:不登校状態等の児童生徒

安心して登校できるための支援や教室以外でも学べる環境を整備することで、不登校状態等の児童生徒に対する支援の充実を図る

研修・好事例の発信

支援人材の派遣

教育支援センターの機能強化

①魅力的な教育活動を展開

- 子どもの「やってみたい」を支える特別活動や児童会・生徒会活動の推進
- すべての子どもが自分に合った学び方で探求することをめざす授業改善の推進
- チーム学年担任制等により、学習や友人との関係等、悩んでいることや困っていることを教師に相談しやすい環境づくりの推進

②人材の派遣による支援の充実

- OSC(教育専門相談員)・SSWの派遣
 - 学生フレンドの派遣
 - 校内教育支援センター支援員の配置
 - 守口市教育支援センターでの支援
- ※人材派遣等や環境づくりにより、
①自己理解 ②共感的人間関係
③課題解決能力 ④キャリアプランニング
の視点からも支援を行う

3. 令和7年度の新たな取組み

①校内教育支援センター支援員配置事業【府2/3、市1/3】

府の事業を活用して5名配置(小学校4校、中学校1校)し、不登校支援を行う。

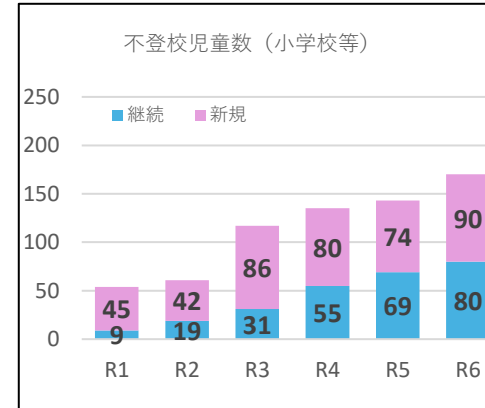
②守口市教育支援センター(ふれあい教室)分室を新たに設置

現在の教育支援センター(梶小学校内)に加え、樟風中学校内に分室を新たに設置。西部における児童生徒に対しての支援の充実を図る。

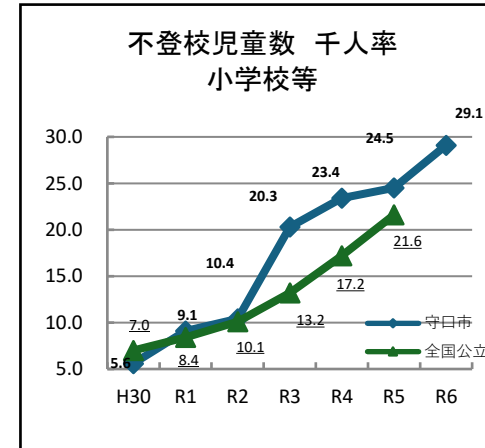
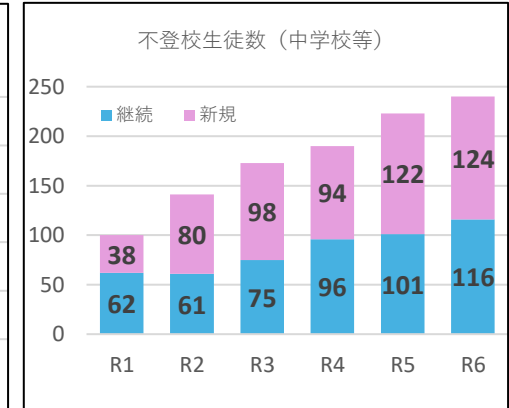
4. 課題

- ・子どもの自立を促す取組みに関して、学校間で情報共有をする機会が少なく、新規不登校児童生徒数の減少に向けた取組みのアイデアが生み出されにくい。
- ・校内教育支援センター支援員の配置については、府の事業の活用が不十分。

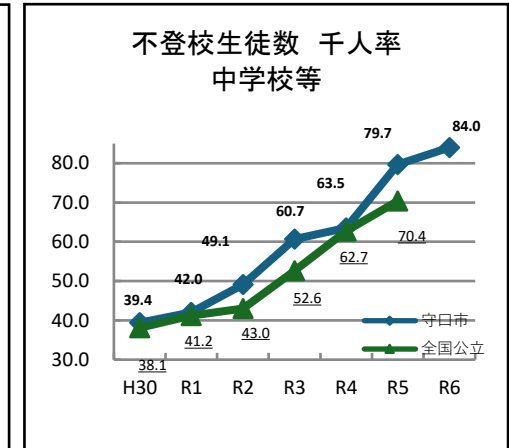
【資料1-①】



【資料1-②】



【資料2-①】



【資料2-②】

- ・Teams等の活用により、学校からも子どもの自立を促す取組みを発信・共有する場を設け、各校の取組みの充実に向けた具体的な指導・助言を行う。
- ・府の事業や地域人材の活用等により、校内教育支援センター支援員の確保を進め、不登校児童生徒数の減少と不登校等の児童生徒に対する支援の充実を図る。